

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい道徳
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第2学年以上で、道徳的価値の理解につながる発問が、「考えよう①」として設けられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、人と関わり様々な考えにふれることのできる教材が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返りができるよう、未来の自分へ向けた「かがやく自分に」や「学習のまとめ」が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、「いじめ」について概念的、直接的、間接的に様々な視点から考えるために、複数の教材を関連づけた設定がされている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、情報機器の扱い方や手紙を書くときの注意など、情報モラル学習や、トラブル防止につながる教材が設けられている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、キャリア教育、環境教育など、学んだことを将来や社会につなげるための「つながる・ひろがる」が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 活発な意見交流のために、話し合いの約束を含めた学習の進め方が解説された「道徳の時間が始まるよ！」が巻頭に設定されている。 □ 第3学年「通学路で、どんなしぜんに出会うかな」では、自然・地域に関して、理科や社会の内容と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、自分の考えを整理できるように、言語活動を行う上での手引きとなる「考えるステップ」が教材の終わりに設定されている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第3学年「ふるさといいとこさがし」など、文化や郷土の発展につくした先人についての教材等が設けられている。 □ 体験活動の充実に関して、日常の体験に関した教材から、自分の体験活動へにつなげるために、第3学年以上で、「つながる・広がる」のコーナーが設定されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年では、幼児教育との連携、第6学年では「これからもかがやく自分に！」で中学校との連携を図った教材が設けられている。 □ 情報活用能力の育成に関して、全学年で、巻末にある補助的な教材を通して、情報モラルについて学べるように設定されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、教材の冒頭で「どんなことを考えながら読んでいくか」が例示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各内容項目が冒頭に「学習のテーマ」として表示されている。また、第3学年以降は「考えよう」という発問コーナーが設けられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉えるために、発達の段階、興味に合わせた内容の活動型教材が設けられている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉える力を育むために、人との関わりの中でお互いの考えを伝え合う、「出会うふれ合う」のページが設けられている。 □ 第3学年以上において話し合いの手引きになる「考えるステップ」が設けられている。「考えるステップ」の中に役割演技が設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「生命尊重」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A B判、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「問題を見つけて考える」などの活動について、マークを用いて、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	学 園	書 名	かがやけ みらい
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、道徳的価値に気づく「きづき」、考えを深める「まなび」の2冊で構成されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、思考力・判断力を「きづき」、表現力等を「まなび」で学ぶ設定になっている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるように、全学年冒頭に「きづき」が、題材名の下には記述欄が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、人との関わり合いを意識して学べる教材が「ともにいきる」というマークで重点的に設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関してSNSやスマホゲームの扱い方などを通して、情報モラル、節度や相互理解を学ぶことにつながる教材が設けられている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、地域活動への関心を高め、良さを知り、関わろうとする態度の育成を図るために、「きづき」巻末に「ふるさとコラム」が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学びを深めるために「主題」が子どもにわかる言葉で表示されている「道徳ノート」が、内容項目ごと設定されている。 □ 第1学年巻末のふるさとコラムで、「わたしたちの町」に関する内容が、社会の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、充実した話し合いができるように、自分の考えと、他の児童の考えをそれぞれ記入するコーナーが、「まなび」に設定されている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第2学年「もっと知りたい私の町」などの教材がある。また、各学年に「ふるさとコラム」が設定されている。 □ 体験活動の充実に関して、役割演技を通して、児童が道徳的価値について主体的に考える学習活動には、「やってみよう」のマークが明示されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年の道徳授業開きで、他の児童との輪を広げられるよう、簡単なコミュニケーション活動が設定されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、各学年に情報モラルに関する教材、第2学年から情報機器の取り扱いについての教材が取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、挿絵や写真、グラフなどがバランスよく配置されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年ともに、「きづき」「まなび」の2冊の構成となっており、「まなび」には、様々な立場から考えるための発問や自分の感じたことを記述する欄が設けられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「きづき」は児童自らが考えたいこと、話したいことを設定できるように、発問などを例示していない。「まなび」は児童の実態に合わせた複数の発問が例示されている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自らの考えを広げたり深めたりするために、「まなび」では複数の教材を並列して設定している。 □ 問題解決的な学習で「きづき」が設けられている。別冊「やってみよう」で役割演技などが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「ともにいきる」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A B判、「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「ともにいきる」、「情報モラル」などの活動についてマークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	教出	書名	はばたこう明日へ
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学ぶことが明確になるようなヒントが、冒頭に「キーワード」として掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、役割演技や行動に関する発問を取り入れ、実践につながるよう設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるように、第2学年から「一番大切なもの」が、全学年巻末に振り返りが設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、性別や人権について考える題材や「コラム」が随所に設けられている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、携帯電話のマナーや情報モラル、著作権問題などが題材とされている。また、節度や礼儀につながる教材が設けられている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、各学年ともに「地域と自分との関わり」について考える題材や、現代社会における様々な課題に向きあえる題材を設けている。 		
3 内容・構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 道徳的価値について、より深く考えるために役割演技などを行う「考えよう」「深めよう」「やってみよう」というコーナーが設けられている。 □ 第3学年「どうしていけないのかな」では、「見学マナー」に関する内容が、社会科見学と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、「話し合い」や「役割演技」、「書くこと」の取組みができるように、巻頭に「道徳ではこんな学習をするよ」を設けている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する「祖国にオリンピックを」などの教材が補助教材も含めて、随所に設定されている。 □ 体験活動の充実に関して、教材文の途中、もしくは教材文のあとに「やってみよう」のコーナーが設けられている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年はイラストがメインになっている。第6学年では「中学生になってがんばりたいこと」などが設定されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、「情報モラルをまもる」を重点テーマの一つに設定し、個人情報や著作権について取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、導入の問いかけや考えるヒントになる発問が伝わるように、キャラクターの吹き出しが設定されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 教材の最後に「考えよう」、「深めよう」のコーナーが設けられている。また、何について考えるかを示唆するためにキャラクターが設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 自分自身の問題と捉え、互いに意見を交流できるように、教材のあとに「考えよう」「深めよう」「つなげよう」の項目があり、発問例が設けられている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、発達の段階に応じて、偉人の考えに触れることができる題材が設定されている。 □ 問題意識を持つための拡大ページが設けられている。「やってみよう」で役割演技などが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「現代的課題」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A B判、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「考えよう」、「深めよう」などの活動について、マークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	光村	書名	きみが いちばん ひかるとき
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、児童の発達段階に合わせ、1年間を3つのまとまりにわけて、教材が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるようなコーナー「なんだろうなんだろう」や、結末がない教材が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるよう、学期ごとの「学びの記録」、1年間の「まとめ」のコーナーが設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、「オリンピック」や「人権」、「震災」を意識した現代的課題に関する題材が随所に設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、情報モラルや著作権などをコラムや教材としている。また、自由と責任などの内容項目で複数の教材を関連付けた設定がされている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、「環境」や「国際理解」など現代的な課題については、考えを深めるために、複数の教材を関連づけた設定がされている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が主体的に考えることができるように、教材によっては、教材文の途中に「問い」が設けられている。 □ 第5学年「祖母のりんご」では、「詩」に関する内容が教材末に設けられ、国語の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、児童が自己評価の記録を残し、自身の変化や成長を自覚できるように、「学びの記録」が数か所設定されている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する5年「曲げわっぱから伝わるもの」(お弁当箱)など、身近な教材が発達の段階に応じて取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、「演じて考えよう」等のコーナーで他の児童が演じるのを見ながら考え、話し合う活動が適宜設けられている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年は学びを楽しく感じるよう、イラスト等が随所に設けられている。第6学年は中学生生活を想像させる教材が設けられている。 □ 情報活用能力の育成に関して、全学年で「情報とむきあう」というテーマが教材とコラムを組み合わせたユニット教材として取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、題材の中の登場人物などには随所に振り仮名が振られている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年ともに教材の最後に理解を深めるための問い「考えよう」、「話し合おう」、「つなげよう」が設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 考えを深めるために、複数の異なった視点からまとめたり、活動を紹介したりする、「考えよう・話し合おう」や「つなげよう」というコーナーが設定されている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える楽しさを実感できるように、「なんだろうなんだろう」というコーナーが設けられている。 □ 自分自身のこととして問題意識を持たせるために各教材の冒頭にキャラクターが設けられている。体験的な学習の役割演技では第三者の役割も設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「現代的課題」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ B変形判、「目次や吹き出し等には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。「考えよう・話し合おう」、「つなげよう」などの活動について、マークも用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	日文	書名	生きる力
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、教材の最後にねらいに迫る発問の例「考えてみよう」が設けられている。 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、インターネットを使った学習例や役割演技による学習が設けられている。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるよう、「道徳ノート」で1年間で学んだことをまとめるコーナーが設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①<input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関して、各学年ともに、人との関わりを重点テーマとして、複数の教材を関連づけた設定がされている。 ②<input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関して、「心のベンチ」として思いやり、命、情報モラルなど現代的な課題を取り扱った教材が設けられている。 ③<input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関して、環境問題、安全、キャリア教育など現代的・社会的な課題を考えることができる題材が設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「問題解決的な学習」や「体験的な学習」についての題材には「学習の手引き」が示され、例として活用できるように設定されている。 <input type="checkbox"/> 第5学年「命」では、「命についての詩」に関する内容が、国語や理科の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語活動の充実に関して、教材から気づいたことや感じたことを書き留めることができるように「道徳ノート」は題材順にページが構成されている。 <input type="checkbox"/> 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第6学年「天下の名城をよみがえらせる」日本の文化遺産を保持していく人々などの教材が取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 体験活動の充実に関して、役割演技や動作化の写真を提示し、児童の配置や必要な小道具、配慮事項など明示した「学習の手引き」が設けられている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年が道徳科の授業に興味を持てるように、巻頭にかかるた風にしたイラストや、写真が設定されている。 <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成に関して、第1・2学年では、情報の持つ意味や影響を考えさせる教材が、第3・4学年以降では、実際の通信機器に関する教材が取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 児童の学習上の困難さへの対応に関して、教材のあらすじと登場人物が最初にまとめて掲載されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各学年ともに教材の冒頭に「導入の発問」と「あらすじ」が教材の最後に、「考えを深めるための発問」が設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学びを促し、議論を活発に行えるように、学習の進め方が「道徳のまなび方」に例示されている。 <input type="checkbox"/> 自己を見つめ、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるように、教材と関連した活動ができる「こころのベンチ」のコーナーが設けられている。 <input type="checkbox"/> 「学習の手引き」に問題をつかむ、解決を目指す学習の流れや発問がある。また、「学習の手引き」に具体的な体験的な学習の例が掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「生命尊重」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 <input type="checkbox"/> AB判、「カラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 <input type="checkbox"/> 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「インターネットを使う」などの活動について、マークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	光文	書名	ゆたかな心
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、教材ごとに道徳的価値の理解・追求につながる発問例が掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、下段にキャラクターが「考えたい発問」を投げかけるコーナーが設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるよう、巻末に毎時間ごとの「学びの足あと」と1年間の「まとめ」が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、他者の良さを認める心や、差別や偏見をなくすための「人権」に関するコラムが設けられている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、情報モラルや著作権などの現代的な課題を考えられる教材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、多様化する社会で、自分の将来について考えられるキャリア教育などの題材が設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が目的意識をもって主体的に学習に取り組めるよう、教科書の冒頭にオリエンテーションとして、「さあ、道徳の学習が始まります」が設けられている。 □ 第3学年「郷土かるた」では、「コラムや地域」に関する内容が、国語や社会の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、自分の考えを表現する力を継続して育めるように、授業後に記録をつける「学びの足あと」が設けられている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第6学年「よみがえれ熊本城」など、地域に根付いた文化や行事、先人についての教材が取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、第1学年「あいさつでげんきに」では、実際にあいさつをする活動など、学校の活動の時期に合わせて体験できる教材が設けられている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年初期は、イラスト中心の題材が設定されている。第6学年では中学校への接続を意識した教材が設定されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、全学年で情報モラルの教材やコラム、副題材で具体的な情報機器の使い方が全学年で取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、児童にとってなじみのない言葉は脚注が施されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年ともに冒頭で登場人物を紹介している。また、マンガやアニメを用いた教材が随所に設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童がより多角的・多面的に考えることができるように、教材の下段に「考える」という児童に問いかけるコーナーが設けられている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉えた考え方に発展するように、3種類のキャラクターが思考を促すような問いを出すように設定されている。 □ 経験や生活を結び付け自ら問いが持てるような発問が設けられている。実際の場面を想定した問題解決的な学習が設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「生命尊重」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A4変形判、「特別支援が必要な児童に配慮した内容や構成、デザインとしています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「みんなでやってみよう」などの活動について、マークも用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	学研	書名	新・みんなの道徳
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、色分けされたいくつかのマークで「4つの視点」や学習の仕方が明示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、各教材に主題名が明示されていない。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるように、冒頭に「myProfile」が、巻末に「心の宝物」が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、「いのち」と「生き方」の内容項目が複数の教材どうしを関連付けるなど、重点的に設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、SNSの使い方などをはじめとして、情報モラルなどの現代的な課題を考えられる教材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、キャリア、福祉、環境など、現代社会の様々な課題に自ら関わりを持って考えられるような教材が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的に考え、他の児童と意見を伝え合い、考えが深められるように、「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」のページが設けられている。 □ 第5学年「アルソミトラの空」は、「種子」に関する内容が、理科の「植物の発芽」の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、充実した話し合いができるように、自己を振り返りながら、自分の考えを記入した後に、意見交換をする活動が設けられている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第6学年「大みそかの朝に」などの教材が各学年に設定されている。 □ 体験活動の充実に関して、教材の内容をもとに、役割演技ができるように「やってみよう」のコーナーが適宜設定されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年ではゲーム性のあるものを扱い、第6学年では中学生になる自分を想像させる内容が設けられている。 □ 情報活用能力の育成に関して、情報モラルに関する教材が全学年、「SNSの利用」や「個人情報の取り扱い」など発達の段階に応じて取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、写真や絵、本文が大きく表示されている。発達の段階に応じて、人物名などに読みがなが施されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年ともに教材の最後に「学習の道筋」が例示され、学習のめあて、問いが掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が教材と出会った際に感じたことを大切にするため主題は明示していない。他の児童と考えを伝え合う場面が「やってみよう」などのコーナーに設けられている。 □ 道徳的価値を多面的にとらえられるように、2つの教材を学習したあとに考えるコーナーが設けられている。 □ 問題解決的な学習で、役割演技などで学んだことをもとに自己の振り返りへとつなげる「深めよう」のコーナーが設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「いのちの教育」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A4判、「ユニバーサルデザインに配慮して制作しています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「考える」、「書く」等の活動についてマークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	廣あかつき	書名	小学生の道徳
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、道徳的価値の追求・理解につながる複数の発問例が教材の最後に設けられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、自分のこととして考えられる発問と、記入欄が「道徳ノート」に設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるよう、「道徳ノート」に「心に残っている授業の記録」等が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、共生の観点から全学年にいじめ防止の教材がある。高学年からは実際にいじめを体験した人の話など現実的な教材が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、スマホの扱い方、著作権問題などの情報モラルに関する教材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、社会と自分とのかかわりについて考えを深められるよう、家族と一緒に考えて書くコーナーなどが「道徳ノート」に設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的な学習につながるよう、別冊の「道徳ノート」の中で、自分が自分自身を振り返り、自らに問う内容の発問が設定されている。 □ 第5学年「だれも知らないニュース」では、「身の回りの情報」に関する内容が、社会の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、「学習の記録」として感じたことや考えたことを自由に記述できるように、「道徳ノート」に「学習の記録」として記述する欄が設定されている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する古来より技術と心を伝える宮大工などの教材やコラムが取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、第2学年「こんなときどうするの」など体験的な学習を促す教材が随所に設定されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年の最初の段階ではイラストが中心になっている。これからの小学校生活について考えられる教材が設定されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、「特集」としてインターネットや著作権について情報モラルに関する教材やコラムが設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、登場人物の名前には読みがなが施されている。「道徳ノート」巻末に学習の記録を書くなど、まとめやすい設定がされている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 低学年は「考えよう、話し合おう」、高学年は「学習の道すじ」として、本時のめあてと問いが掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 自分のこととして捉えられるような発問例が、各教材のあとに複数掲載されている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉えるために、多様な考え方、生き方に触れられる、伝記や各分野で活躍した著名人を扱った題材が掲載されている。 □ 「学習の道すじ」で発問例が示され、「道徳ノート」で、見方・考え方を書き込むように設定されている。体験的な学習を促す教材が随所に取り上げられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「善悪の判断」「親切・思いやり」「生命尊重」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A B判「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。発達の段階に応じた文字の大きさ、書体、行間に配慮した目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《特別の教科 道徳（道徳）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	第2学年以上では、「考えよう①」として教材の最後に道徳的諸価値を理解するための主発問を示している。また、自分のこととして考えられるように「考えよう②」が設定されている。
学図	道徳的諸価値に気づくための「きづき」、自分の考えを深めるための「まなび」という2冊構成になっている。また、「まなび」においては、項目ごとにページがまとまっており、一目でわかるよう設定されている。
教出	考えるヒントになったり、学ぶことが明確になったりするように教材の冒頭に「キーワード」が設けられている。また、「深めよう」「やってみよう」という学びの手引きがあり、自分のこととして考えることができるよう設定されている。
光村	学校生活や児童の発達段階に合わせて学べるように、1年間を三つのまとまりにわけて、教材が設定されている。また、三つのまとまりごとに内容項目「A・B・C」のいずれかに重点を置いている。
日文	ねらいに迫る主発問の例が「考えてみよう」として教材の最後に設けられている。また、「道徳ノート」は見方・考え方を書き込むように設定されている。さらに、「考えてみよう」「見つめて・生かそう」に発問の例がある。
光文	教材ごとに道徳的価値の理解・追求につながる発問例を示している。教材を通して考えさせたいことを「問い」として示すことで、その時間に考える視点を与えている。
学研	色分けされたいくつかのマークで、「4つの視点」や、学習の仕方が明示されている。また、「学びの足跡」・「心の宝物」というコーナーで、1年間の振り返りができるように設定されている。
廣あか つき	道徳的価値の追求・理解につながる複数の発問例が各教材の最後に「学習の道すじ」として記載されている。また、関連する書籍の紹介が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	人と関わることで様々な考えにふれ、学ぶために、読み物のほかに、活動型の教材が設定されている。また、保護者と一緒に考えられる内容にもなっている。
学図	思考力・判断力を、価値や発問例が記載されていない「きづき」で、表現力や多面的・多角的な考え方を、発問例がある「まなび」で育成するために2冊構成になっている。
教出	「役割演技」や「行動について考えるさせる発問」を取り入れて、道徳的価値の実践まで考えさせる構成となっている。さらに、「やってみよう」のコーナーで「スキル」としてでロールプレイなどをする場面が設定されている。
光村	主体的に考えたいくなるような発問を取り入れた「なんだろうなんだろう」や、結末が書かれていない教材を取り入れ、多面的・多角的な考えを引き出し、思考力・判断力・表現力の育成につながるよう設定されている。
日文	現実的・社会的課題な題材、インターネットを使って学習できるホームページと連動した教材がある。また、ロールプレイを行う題材もある。
光文	題材下段のキャラクターが考えたいくなるような発問を投げかけ、思考・判断・表現力の育成につながるよう設定されている。また、どの学年にも情報モラルを考えさせる教材がある。
学研	「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、教材に主題名を入れないことで、多面的・多角的に考えられ思考力の育成につながるよう設定されている。
廣あか つき	「道徳ノート」で内容項目ごとの整理がされている。また、題材末の「考えよう 話し合おう」のコーナーに「学習の道すじ」が例示されている。

③	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮 (まとめ・自己を見つめる・振り返りの工夫)	
東書	自己の学びを見つめることができるように、「学習の記録」、「学習の振り返り」、「学習のまとめ」などの振り返りのページが設定されている。また、2年生以上では、道徳的諸価値の理解ができるような主発問例が各教材の最後に「考えよう①」で掲載されている。	
学図	全学年の冒頭で学びの土台を築く、「きづき」を配置している。教科書を「まなび」「きづき」の2冊に分けている。「まなび」には学習したことを通して、自己を見つめる学習活動が掲載されている。	
教出	学年段階をふまえて、自分の成長や1つ上の学年でがんばりたいことを見つけるために、第2学年からは巻頭で「一番大切なもの」、各学年ともに巻末で「一年間の道徳の学習を振り返ろう」が設けられている。	
光村	学期ごとに「学びの記録」で学んだことを書くコーナーが設けられている。また、「まとめ」として、1年間を振り返ることができるように設定されている。さらに、「つなげよう」の中で、これからの自分と行動をつなげる発問例が示されている。	
日文	巻頭の「道徳の学び方」で導入から終末までの学習過程が分かるようにしている。また、教材の最後に「考えてみよう」のコーナーがあり、ねらいに迫る主発問が例示され、「道徳ノート」に自分の見方・考え方を書き込むように設定されている。	
光文	各教材の最後の「広げる」で、日常に生かすヒントが設けられている。また、毎時間の学習で振り返ったことを巻末の「学びの足あと」で、一年間の自己の振り返りが「まとめ」のコーナーにそれぞれ設定されている。	
学研	一年間の自分の成長を振り返るために冒頭に「my Profile」、巻末に「心の宝物(学びの足あと)」が設定されている。さらに、「つなげよう」でこれからの自分の生き方につながるように設定されている。	
廣あかつき	「道徳ノート」巻末、「学習の記録」、「話し合いの記録」、「他の活動の記録」、「心に残っている授業の記録」のコーナーで、自由記述をし自分の成長を書き込めるような設定がされている。	

2 かながわ教育ビジョンとの関連

①	【思いやる力】 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	いじめ防止の視点から、どの学年でも複数の教材を関連付けた学習が設定されている。また、「いじめ」について概念的、直接的、間接的にと様々な視点から考えることができるように設定されている。	
学図	多くの人とのかかわり合いの中で生きていることを意識するために、「ともに生きる」という項目マークを設けてわかりやすく表示されている。	
教出	人権について考える教材が随所に取り入れられている。「男子と女子と協力し合って」では、実際の児童の作文を提示しながら、自分達に置き換えて考えられるような設定がされている。	
光村	現代的課題(オリンピック、人権、震災)を意識した題材が随所にある。また、いじめ問題について、複数時間連続して考え、学びを深めるために複数の教材を関連付けた学習が設定されている。	
日文	人間関係や命の尊さなどをテーマとした教材を組み合わせ、集中的に学習するように設定されている。思いやりや命の大切さといった心情や態度を育成する内容も設けられている。	
光文	他者の良さを認める心や、差別や偏見をなくすために、教材の最後にコラムを設け、考えを深められるような設定がされている。	
学研	「いのち」と「生き方」を柱とし、「見つめよう つながる命」のように内容項目の異なる複数の教材を関連付けた学習が設定されている。	
廣あかつき	いじめ防止の教材を発達段階に応じて掲載。低学年、中学年では直接的ないじめの内容は配置せず、高学年からいじめは実体験など直接的に扱ったものを配置している。	

②	[たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
	(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	情報モラルに関しては、情報機器の扱い方や手紙を書くときの注意などが取り上げられている。また、「いじめ」については概念的、直接的、間接的にと様々な視点から考えることができるような教材が設定されている。	
学図	情報モラルに関しては、SNSやスマホゲームの扱い方などを教材として取り上げ、節度や相互理解の内容で扱うように設定されている。また、多くの人とのかかわり合いながら生きていることを意識しながら学べるような題材が設けられている。	
教出	情報モラルに関しては、携帯電話活用のマナーやインターネット上の扱い、著作権問題、仲間外しなどを教材として、節度、節制や礼儀などの内容で取り上げている。	
光村	インターネットのマナーや、著作権に関する教材を、コラムと関連付けて教材を取り上げ、自由と責任や礼儀などの内容で扱うような設定がされている。さらに、教科書巻末に「現代的な課題等との関わり」が提示されていて、必要に応じて単元を再構成できる。	
日文	情報モラルに関して、低学年では日常の経験に関連したことや、情報の持つ意味について。また、中学年以上では通信機器を扱い、セキュリティ問題等を取り上げている。さらに、「心のベンチ」として「思いやり」、「命」、「情報モラル」など現代的な課題が取り上げられている。	
光文	目次の中に「情報モラル」、「命」、「いじめ」が明記されている。さらに、情報モラルに関しては、インターネットのマナーとやりとり、著作権問題などの教材をコラムと関連付けて教材を取り上げ、自由と責任や礼儀などの内容で扱うように設定されている。	
学研	情報モラルに関する題材であることを示すマークを入れている。また、SNSに関する事など、誰にでも起こりうるトラブルの場面を想定した教材が設定されている。	
廣あかつき	情報モラルに関しては、スマホの扱い方や著作権などを教材やコラムとして取り上げ、思いやり、親切の内容で扱うように配慮している。また、「命の尊さ」についての教材が各学年ともに特集ページを設けるなど複数回取り上げられている。	
③	[社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫	
	(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	題材に関する内容が記載されたコーナー「つながる・ひろがる」がある。キャリア教育、環境教育などを題材以外にも広げるために有効なコーナーである。	
学図	地域の活動への興味・関心を高め、地域の良さを知り、かかわろうとする態度の育成を図り、「きづき」の巻末に地域ごとの活動や特色について取り上げた「ふるさとコラム」が設定されている。	
教出	各学年「地域と自分との関わり」について考える教材が複数掲載されている。また、福祉教育、キャリア教育、自然環境保全教育など現代社会における様々な課題に向きあえる多様な教材が設けられている。	
光村	長期休み前に「環境」「国際理解」を扱ったコラムが設定され、「夏休みに調べてみよう」「冬休みに調べてみよう」というコーナーが設けられている。	
日文	環境問題、安全教育、キャリア教育など現代的・社会的な課題を考えることができる題材が設けられている。巻頭の「道徳のとびら」において学校・家庭・地域の連携が提示されている。	
光文	多様化する社会で生きる子供たちが現代的な課題を考えられる題材を随所に取り入れている。勤労奉仕にかかわる内容で、社会貢献の題材が紹介されている。	
学研	現代社会の様々な課題に関わる教材が充実しており、仕事に対する使命感に関する教材など、子どもが自ら関わりをもって考えることができるように設定されている。また、福祉に関する教育、環境教育なども設けられている。	
廣あかつき	別冊の「道徳ノート」に、家族と一緒に考えて書くコーナーや、地域の人や身近な人たちに尋ねたことを記入するコーナーが設けられており、社会と自分との関わりについて考えを深められるよう設定されている。	

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	「気づく」→「考える」、「話し合う」→「振り返る」、「見つめる」→「生かす」など話し合いの約束とともに道徳の学習の進め方が書かれている。また、教材の導入で短い文章、イラストや写真などがあり、子どもたちの活発な意見交流が期待できる。
学図	道徳ノート「まなび」は、内容項目ごとにまとめられており、主題が子どもにわかる言葉で掲載されている。また、自分の考えと他の児童の考えを書く欄がある。ふたつあることで自然と議論を促している。
教出	役割演技を行ったりしながら道徳的諸価値についてより深く考えられるように、「考えよう」「深めよう」「やってみよう」という項目が設けられている。
光村	教材末にある「考えよう話し合おう」に「めあて」と「問い」が明記してある。教材によって文末だけでなく、文の途中に「問い」があるものがある。
日文	「問題解決的な学習」や「体験的な学習」についての教材に続いて「学習の手引き」が示されており、指導の参考例として活用できるようになっている。
光文	教科書の冒頭にオリエンテーションとして「さあ、道徳の学習が始まります」が設けられており、児童が目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるようにしている。
学研	主体的に考え、他の児童と意見を伝え合いながら考えを深めるために、「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」のコーナーが設けられている。
廣あかつき	主体的・対話的な学習につながるよう、様々な読み物教材が設けられている。また、「道徳ノートの中」で、自分が自分に問う発問が提示されており、より主体的・対話的に学習活動が展開できるよう設定されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	「つながる・広がる」という項目において、各教科との関連が図られている。第3学年以上の学年にそれぞれ複数回掲載されている。巻末の付録において他教科で指導している内容と関連付けたものが載っている。
学図	学校行事や、学校での生活をもとにした教材が随所に配置されており、教材の配列は他教科等の学習時期、実際の学校行事と対抗する時期に扱うことができるようにしている。
教出	他教科や特別活動、学校行事や年中行事などとの関連が図りやすい教材配列にしている。「どうしていけないのかな」は、スーパーマーケットの見学時のマナーについて考える題材で、社会科見学と関連を図るよう設定されている。
光村	1年間を3つのまとまりに分けており、児童の発達段階と時期に応じて「A～C」の視点に重点を置いている。「D」は年間を通してバランスよく設定されている。
日文	他教科の学習活動を素材とした教材を設定すると共に、「学習の手引き」で特別活動などの体験活動を生かした展開例を例示している。また、「命」は国語の詩の学習や理科生命の誕生に関連する内容となっている。
光文	各題材の「広げる」で、学習を家庭や地域、他教科へ広げる提案をしている。他教科とつなげて効果的に学習できるコラムを配置している。「郷土かるた」は、葛飾区の郷土かるたの例から、自分たちのまちのよさを学ぶように設定されている。
学研	各学年において各教科等での道徳性の育成につながる教材が配置されており、関連させながら年間指導計画が作成できるようになっている。また、家庭や地域との連携を図りながら道徳的価値の視点で学習を深められる教材を扱っている。
廣あかつき	国内の各地域に関連する教材が複数取り上げられている。また、各学年、他教科に関連する教材が取り扱われている。「だれも知らないニュース」は情報に関する内容となっており、第5学年社会、身の回りの情報の学習に関連している。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	「問題を見つけて考える」教材が、各学年ともに設定されており、題材の終わりには「考えるステップ」が示され、言語活動を行う上での手引きとなるように設定されている。
学図	「まなび」に自分の考えを記入し、他の児童の考えも記入する欄が設けられている。このような学習活動を積み重ねることによって言語活動の充実が図れるよう配慮されている。
教出	巻頭「道徳ではこんな学習をするよ」において、話し合い活動や役割演技など学習の内容がイラストとともに分かりやすく記載されている。
光村	学年ごとに「学びの記録」が設定されており、児童が自己評価の記録を残していくことで、自分の変化や成長を自覚できると共に、言語活動の充実も図れるよう設定されている。
日文	教科書にはさめる形で「道徳ノート」がある。各教材、主題についての自分の考えを書く欄が確保されている。また、最後には「保護者記入欄」が設けられている。
光文	言語活動の充実に関して、巻末の「学びの足あと」に授業後の記録をつけることで、自分の考えを表現する力を継続して育めるような設定がされている。
学研	自己を振り返りながら、自分の考えを記入してからお互いに意見交換をする活動を通して、言語活動の充実が図るように設定されている。
廣あかつき	書く活動を充実させるために、別冊ノートが設けられている。内容項目に関する箇所だけでなく、1時間の学習や学期末の学習を振り返ったり、話し合い活動の際に活用できたりするようなページがある。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を扱う教材や中・高学年では「付録 つながる 広がる」において伝統文化や郷土の発展に尽くした人々などが取り上げられている。
学図	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する「もっと知りたい私の町」などの教材を各学年配置。「きづき」の巻末には各学年ともに「ふるさと」コラムが設定されている。
教出	補助的な教材を含め、随所に掲載していくことで、各学校が題材の中から選択できるように配慮している。さらに、郷土の発展に尽くした先人や国のことを思った先人などを題材として取り上げている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実に資するでは、第6学年「ようこそ、菅島へ！」郷土を大切にして観光ツアーをしている子どもたちや伝統工芸品を作り続けている職人が教材として取り上げられている。
日文	伝統と文化に関わる教材に、複数のデジタルコンテンツ「はしれ、さんりくてつどう」(映像資料)などが用意されており、理解を深められるようにしている。
光文	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度の内容を中心に、歴史と伝統を守ることの意義を考える第6学年「よみがえれ熊本城」など地域に根付く伝統や文化、行事、先人についての教材が随所に設定されている。
学研	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する教材が設定されている。日本文化のよさにふれて帰化した先人の心や、日本の伝統料理への思いなどを題材として取り上げている。
廣あかつき	伝統や文化に関する教育の充実に資するでは、木造建設を復興の道具の復元をやり遂げた先人が教材とコラムで取り上げられている。

⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮

東書	第3～6学年では、「つながる・広がる」において、日常生活の中で経験し、豊かな心の育成につながるような内容を配置している。わたしのボランティア体験」委員会活動や、ボランティアなどの体験活動をもとにした教材が取り上げられている。
学図	体験活動の充実に向けて、特別活動と結びつけて考えられる教材を複数配置している。児童が道徳的価値について主体的に考える学習活動には、「やってみよう」のマークが表示されている。
教出	特別活動とのつながりを意識して教材が配置されており、体験活動と道徳の学びが関連付けられている。また、活動指示とともにイラストを掲載して取り組みやすくしている。「やってみよう」が設けられている。
光村	体験活動と結びつけた展開が考えられる題材が各学年にある。他教科との関連、図書との関連が図られている。第4学年「このままにしていたら」（ごみ処理施設の見学）などと結びつけて考えられる設定になっている。
日文	役割演技や動作化の写真を提示し、児童の配置や必要な小道具、配慮事項などを具体的に示している。5年「古いバケツ」では掃除という日常生活場面を取り上げ、日常の活動と結びつけることができる内容が取り上げられている。
光文	学校の活動時期に合わせて教材が配列されている。第6学年「一年生のお世話係—アフター・ユ—」など日常の経験と結びつけた教材を設けることで、今まで体験した内容やこれから体験したいことについて考えられるように設定されている。
学研	体験活動の充実に向けて、児童が体験するであろう学校行事や身近な生活場面につながる教材が取り上げられている。また、教材の内容をもとに、役割演技ができるように「やってみよう」のコーナーが設けられている。
廣あかつき	特別活動や社会科・総合的な学習の時間と結びつけて考えられる教材を全学年で配置している。「ふわふわことば ちくちくことば」実際に言葉を使って色をみる活動が設定されている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮

東書	第1学年の最初の段階では、イラストをメインに、取り組みやすい内容になっている。第6学年の最後には、「これからもかがやく自分に！」で中学校との連携を図った教材が設けられている。
学図	入学したての第1学年が、道徳の授業開きで他の児童との輪を広げられるよう、簡単なコミュニケーション活動が導入されている。第1学年の最初の段階では、イラストをメインに、取り組みやすい設定になっている。
教出	第1学年では挿絵や写真が複数活用されており、入学当初の児童も楽しく学ぶことができるよう配慮されている。第6学年では、巻末に「一年間の道徳の学習をふり返ろう」のページが設定されており、その中で「中学生になってがんばりたいこと」が設けられている。
光村	第1学年の最初の段階では、イラストをメインに、取り組みやすい内容になっている。第6学年の最後には、人生の次のステージにつながる内容があり、中学校生活を想像せる内容ようになっている。
日文	第1学年のオリエンテーションはイラスト主体で表現されている。また、道徳ノートへの文字の記入は2学期以降に配当されている。第5・6学年では、中学校との接続を視野に、社会の一員としての自覚を育てることを意識した内容が複数提示されている。
光文	第1学年はイラストが複数使用されている。第1学年の題材の始めの方に「がっこうたんけん」の教材を導入し、安心して小学校生活をスタートできるよう配慮されている。第6学年では中学校への接続を意識した教材「わたしはひろがる」が設定されている。
学研	小学校生活に慣れるように、第1学年の最初の授業では、ゲーム性のあるものが設けられている。第6学年の最後には、未来の自分につながる内容があり、中学生へ思いを膨らませるようになっている。
廣あかつき	第1学年の一定期間はイラストのみ、その後もしばらくはひらがなのみでの題材配列となっている。

⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮

東書	それぞれの発達段階に応じて全学年に情報モラル題材を掲載している。各学年ともに、巻末にある補助教材を通して情報モラルについて学べるように教材を配置している。
学図	各学年に情報モラルに関する教材を配置し、第2学年の「ゲームをしていたつもりなのに」など、情報機器の取り扱いについての内容を取り上げている。
教出	情報モラルを重点テーマに位置付け、携帯電話活用のマナーやインターネット上の扱いや著作権問題などを題材として、節度、節制や礼儀などの内容で取り上げている。
光村	情報モラルに関する内容について、よびかけと教材、コラムをセットにしたユニットを設けている。また、体験的な学習として、ソーシャルスキルトレーニングを設定している。
日文	低学年では、日常の経験の中から情報の意味や影響を考えさせる教材が選ばれている。中学年以降では、実際の通信機器に関わった教材が取り上げられている。
光文	情報モラルを「現代的な課題への取り組み」の一つに位置付け、教材やコラムを全学年に配置している。また、スマートフォンなど、身近な情報機器や話題を通して情報モラルが学べる教材やコラムを全学年に配置している。
学研	SNSの利用や個人情報の取り扱いなど、情報モラルに関する教材を全学年で扱い、発達の段階に応じて繰り返し学習できる。
廣あかつき	全学年「特集」として、情報モラルについて取り上げている。また、スマートフォンの扱い方や著作権などを、教材やコラムとして取り上げている。さらに、発達の段階に応じて教材が選ばれており、適宜配置されている。

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮

東書	児童の学習上の困難さへの対応に関して、教材の冒頭で問題の焦点化を図るために「どんなことを考えながら読んでいくか」が例示されている。
学図	挿絵や写真、グラフ等がバランスよく配置され、読むことに苦手意識のある児童でも興味関心をもって題材を読むことができるよう配慮されている。
教出	キャラクターの発言が、導入の問いかけや、考えるべきことのヒントになっている。さらに、児童が主体的に考えるときの示唆する役割としても設けられている。
光村	題材の中の個人名には読み仮名がふってある。題材を自分事として考えるために、題材の導入にキャラクターと吹き出しが掲載されている。
日文	読み取りが苦手な児童への支援としてあらすじと登場人物が最初にまとめられている。判型はA B判が採用されている。
光文	児童にとってなじみのない言葉は脚注がつけられている。また、教材文の初めに登場人物を紹介するコーナーが設けられている。
学研	判型がA 4判で、写真や絵、本文が大きく掲載されている。児童の発達の段階に応じて、文字の大きさや書体、行間が工夫されている。
廣あかつき	登場人物の名前には読みがなが施されている。別冊「道徳ノート」の学習の記録の記入欄が巻末に一元化されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮

東書	冒頭に主題名を明記して、その時間に学ぶことを明確にしている。また低学年では、「問い」をキャラクターが投げかけ、児童が考えるときの示唆を与えている。
学図	教科書を2冊に分け、気づき、学びと分けることで、学習することをわかりやすくしている。児童自身が、道徳の学習をどのように進めていけばよいのかがわかるように、各学年「道徳の学習をはじめよう」のコーナーが掲載されており、絵と言葉で説明されている。
教出	冒頭に道徳での学習の仕方が例示されている。教材の最後に「考えよう」「深めよう」という項目があり、より理解を深められる構成となっている。
光村	絵本の雰囲気そのまま活かして、話に入り込んで学べるようにしている。絵や写真を大きく掲載することで、読むことに負担を感じる児童も、無理なく授業に参加できるようにしている。
日文	教材のはじめにあらすじが載っている。教材の冒頭に導入の発問、最後に考えを深めるための発問が例示されている。
光文	冒頭で登場人物を紹介することで、教材の理解を助けている。親しみやすいマンガ・アニメ・定番の教材を配置することで、児童が楽しみながら理解できるようにしている。
学研	写真やイラスト、漫画など、多様なビジュアルを使って表現している。集中して教材に向き合えるように、見開きで始まるようにしている。
廣あかつき	児童が学習の見通しをもって学ぶことができるように、「学習の道すじ」として、本時のめあてと問いを掲載している。児童の理解を助けるために、教材の内容に関わる知識として「知っておこう」が掲載されている。

⑩ 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる工夫や配慮がされているか。

東書	どの学年にも活動を取り入れた教材が設定されている。ゲーム要素が入っていたり、親しみやすい内容だったりするので、子どもたちが楽しんで学ぶことができる。
学図	教材のあとに発問例が掲載されていない。教材から考えたこと、話し合いたいことを自分たちで設定することができる。道徳ノート「まなび」のほうには押さえたい価値や発問例が載っている。
教出	教材のあとには発問例が複数のっている。「考えよう」「深めよう」「つなげよう」の項目がある。どの学年も「スキル」という内容があり、疑似体験をすることで、より深く考え、話し合える設定がされている。
光村	題材のあとに発問例が載っている。「考えよう・話し合おう」「つなげよう」では2つの視点からまとめたり、様々な活動を紹介したりしている。
日文	第1・3・5学年の巻頭オリエンテーションページで「道徳の学び方」が示されているため、道徳の学習をどのように進めていくか、見通しをもつことができる。
光文	題材の終わりに発問が2つ例示されている。また、教材の下にもさまざまな発問（つぶやき）が例示されている。
学研	本文において冒頭では主題を記載せず、特定の価値に児童が押し付けられないよう配慮している。「深めよう」や「やってみよう」のページを設け、他の児童と考えを伝え合う場面が設定できるよう工夫されている。
廣あかつき	教材の終わりに「考えよう 話し合おう」が設定されている。教材を通して考えたり、話し合ったりできるようなコーナーが設定されていることで、目的意識をもって考えが交流できる。

⑪ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学びの工夫や配慮がされているか。	
東書	「出会うふれ合う」のページでは、人とのかかわりの中で考えを伝え合い、深め合う活動ができるようになっている。第3学年以上の「つながる・広がる」が設定されている。
学図	「まなび」では複数の教材が並列して設定されている。また、自分の考えと他の児童の考えを書く欄が設定されている。考えたことを比べることができる。
教出	特定の人物に焦点化した教材が設定されている。教科書の後ろには補助的な題材として複数の教材が載っている。
光村	「考えよう、話し合おう」というコーナーを設けることで、多面的・多角的に考える楽しさを実感できる。答えが一つではない哲学的な内容であり、子どもたちが多様に考えることができる。
日文	「こころのベンチ」では道徳的価値を多面的・多角的に考えられるように、教材と関連した活動ができる。友達とかかわりながら取り組み、教材で学んだ道徳的価値をより深く学ぶことができる。
光文	トリーというキャラクターが教材の中で、多面的・多角的な思考を促すような問いかけをしている。また、子どもたちが考えそうな問いかけやねらいにせまる問いかけがあり、より多面的・多角的に考えることができる設定になっている。
学研	「2つの題材を学習したあとに考えたこと」があることで、価値が多面的にとらえられるようにしている。また、教材名の前に余計な情報がないため、主題やねらいとする価値を子どもたち自身がさぐりながら学習を進めることができる。
廣あかつき	多様な考え方、生き方に触れられるように、先人の伝記や様々なジャンルで活躍した著名人などを扱った教材を掲載している。また、道徳ノートにある問いは、他の児童と話し合うことで多面的・多角的に考えられるように設定されている。
⑫ 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮	
東書	第3学年以上において問題解決的な教材を配置。考えるステップを例示することで、話し合いの手引きとなるようにしている。また、全学年で「出会う・触れ合う」というコミュニケーション活動など、活動型の教材が各学年ともに設定されている。
学図	「きづき」において児童が課題を見つけ、「まなび」において課題を追求できるように考えられている。また、「まなび」において「やってみよう」を設定することで、ロールプレイを通して考えられるようにしている。
教出	教材の前に学習の効果を高めるための拡大導入ページを適宜、設けている。様々な問題を取り上げ、児童自身が道徳的課題に気づき、課題についての問いをもちながら学習に取り組めるようにしている。また、本文の途中、もしくは教材文のあとに「やってみよう」を設けている。
光村	問題解決的な学習では、キャラクターが各教材の冒頭に学習に入る前に考えてほしいことを呼び掛けて、「自分ならどう考えるだろう」と問題意識をもって取り組めるようにしている。また、体験的な学習では、演技している人だけでなく、見ている人の視点も大事にされている。
日文	各学年ともに問題解決的な学習が配置されている。「学びの手引き」をつけることで、順序立てて考えられるようにしている。各学年で役割演技が中心の体験的な教材が設定されている。
光文	児童自ら「問い」をもって授業に臨めるように、経験や生活の中から「問い」がもてるように、主題名のところに様々な導入の発問を設けている。また、低学年を中心に動作化などの体験的な学習が設定されている。
学研	問題解決的な学習で、考えを深めることができるように「深めよう」のコーナーが設けられている。また、教材の内容をもとに、役割演技ができるように「やってみよう」のコーナーが設けられている。
廣あかつき	問題解決的な学習では、学習が道徳的内容になるように「学習の道すじ」で発問を例示している。また、道徳ノートで、見方・考え方を書き込めるように設定されている。さらに、各学年ともに複数の体験的な学習を配置している。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
学図	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
教出	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
光村	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
日文	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
光文	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
学研	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
廣あかつき	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	A B判、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。
学図	A B判、「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。
教出	A B判、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。
光村	B変形判、「目次や吹き出し等には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。」と記載されている。
日文	A B判、「カラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。
光文	A 4変形判、「特別支援が必要な児童に配慮した内容や構成、デザインとしています。」と記載されている。
学研	A 4判、「ユニバーサルデザインに配慮して制作しています。」と記載されている。
廣あかつき	A B判「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。
③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「問題を見つけて考える」などの活動について、マークを用いて、目で見て分かりやすい設定がされている。
学図	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「ともに生きる」、「情報モラル」などの活動についてマークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。
教出	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「考えよう」、「深めよう」などの活動について、マークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。
光村	四つの視点をそれぞれマークで表している。「考えよう・話し合おう」、「つなげよう」などの活動について、マークも用い、目で見て分かりやすい設定がされている。
日文	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「インターネットを使う」などの活動について、マークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。
光文	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「みんなでやってみよう」などの活動について、マークも用い、目で見て分かりやすい設定がされている。
学研	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「考える」、「書く」等の活動についてマークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。
廣あかつき	四つの視点をそれぞれマークで表している。発達の段階に応じた文字の大きさ、書体、行間に配慮した目で見て分かりやすい設定がされている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	「生命の尊さ」について考えるための読み物教材として、第4学年に「走れ江ノ電光の中へ」が掲載されている。
学図	「友情、信頼」について考えるための読み物教材として、第3学年に「ナホとメグ」(川澄奈穂美)が掲載されている。
教出	「勤労、公共の精神」について考えるための読み物教材として、第4学年に「二宮金次郎の働き」が掲載されている。
光村	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」について考えるための補助資料「日本に伝わる『くらしの道具』」の写真資料として、第3学年に「小田原ちようちゃん」が掲載されている。
日文	「自然愛護」について考える読み物教材に関連したコラムとして、第4学年にビーチクリーンのボランティアの活動の写真が掲載されている。
光文	「国際理解、国際親善」を考えるための読み物教材として、第3学年に「海をわたるランドセル」が掲載されている。
学研	「勤労、公共の精神」について考えるための読み物教材として、第3学年に「わらじ作り」(二宮金次郎)が掲載されている。
廣あかつき	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」について考えるための読み物教材として、第4学年に「村をすくった『長十郎なし』」が掲載されている。

② OURL、二次元コード等の掲載の有無

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
東書	有	有	有	有	有	有
学図	有	有	有	有	有	有
教出	無	無	有	有	有	有
光村	有	有	有	有	有	有
日文	有	有	有	有	有	有
光文	無	無	無	無	無	無
学研	有	有	有	有	有	有
廣あかつき	無	無	有	有	有	有

③ O教科書の重量(単位はグラム)

発行者名	総冊数	1年	1年別冊	2年	2年別冊	3年	3年別冊	4年	4年別冊	5年	5年別冊	6年	6年別冊
東書	6	263		298		335		342		362		392	
学図	12	230	139	222	139	255	139	264	138	285	148	285	148
教出	6	282		295		309		333		340		346	
光村	6	268		309		335		340		362		387	
日文	12	422		451		471		485		483		484	
光文	6	368		385		417		426		439		445	
学研	6	328		339		364		374		390		400	
廣あかつき	12	350		365		382		402		453		465	